

普及活動情勢報告（令和2年1月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

加工用わさび目標反収4tを目指して ～津野町、梶原町で栽培スタート～



定植時の様子

今年も津野町、梶原町で加工用わさびの栽培が始まりました。4戸の農家が11月22日～12月4日に苗を受け取り、それぞれ定植しました。これまでは、128穴のセルトレイ苗を定植していましたが、昨年実証試験した72穴のセルトレイ苗の初期生育が良かったので、今年は全戸が72穴苗を注文しました。強い寒さで一部凍害を受けましたが、現在では順調に生育しています。

今年度は当課が中心となって加工用わさび栽培マニュアルを作成しました。マニュアルを基に栽培に取り組み、全員が目標反収4tを実現できるよう継続して支援していきます。

安定生産に向けて情報共有 ～津野山ナス部会反省会～



反省会の様子

12月17・19日、JA高知県高西地区津野山営農経済センターでナス部会反省会が開催され、生産者16人が参加しました。

当課からは、殺虫剤の作用機作や感受性、殺菌剤の作用点について情報提供しました。また、高知県版GAPによる栽培終了時の点検事項について説明しました。生産者からは「殺虫剤の感受性は地域によって異なることがわかった」「ミツバチへの影響に考慮して農薬散布しなければならない」など活発な意見が出ました。

JAからは、今年度の出荷実績やミツバチの飼育方法について説明しました。今作では梅雨入りが遅かったことによる日照不足が影響し、最盛期に出荷量が落ち込みましたが、栽培管理の徹底により米ナスでは昨年の出荷量を5.6トン上回りました。

当課は、引き続き関係機関とともに栽培指導に取り組み、安定的な農産物生産を支援していきます。

悪天候に左右された1年となりました ～津野山ミョウガ部会反省会～



反省会の様子

12月19日、JA高知県高西地区津野山営農経済センターでミョウガ部会反省会を開催し、生産者17人が参加しました。

当課からは、個別月別生育調査結果や管内で問題となっているモトジロアザミウマ等の病害虫対策について情報提供しました。生産者は熱心に説明を聞いており「モトジロアザミウマの天敵であるリモニカスカブリダニはいくらぐらいするのか」など積極的に質問していました。

JAからは、今年度の定植から育成期間と収穫最盛期の天候について説明しました。2月の低日照と7月の低温低日照が影響し、単価はやや低めでしたが、出荷量は昨年を14.5トン上回りました。

当課は、引き続き関係機関と連携し、全戸巡回を通じて安定的な農産物生産を支援していきます。

厳寒期の栽培管理と育苗のポイントを確認 ～ニラ現地検討会の開催～



ニラ圃場の様子

12月19日、JA土佐くろしおニラ部会の現地検討会が須崎市多ノ郷と中土佐町上ノ加江で開催され生産者16名が参加しました。

当課からは、ハウス内の温度管理やかん水、追肥、電照方法、病害虫防除について説明し、育苗では、播種後の管理や留意すべき病害虫について説明しました。特にハウスの温度管理では、高温多湿の蒸し込み状態とならないよう早めに換気するよう注意喚起を行いました。JAからは、現在の出荷・販売状況やポット苗の播種計画等について説明がありました。

参加者からは、ネギアザミウマや褐色葉枯病に関する質問が相次ぎ、対応に苦慮していることがうかがわれました。

当課では、今後も部会の活動を支援し、ニラの収量・品質の向上に努めます。

販路拡大を目指して！ ～6次産業化支援チーム会の開催～



よさ恋バナナの商品

須崎市でバナナを栽培している農家に対し、6次産業化支援チームで販路拡大に向けた取り組みへの支援を行っています。

12月24日に開催したチーム会では、「よさ恋バナナ」をまずは知ってもらうために商品についての情報整理、情報発信の必要性等について検討することができました。その後、POP、リーフレット作成への支援を行い、直販所ではPOPを付けての販売も開始しました。

商談会にも積極的に参加していく計画も立てており、当課は、今後も引き続き取り組みへの支援を行っていきます。

これまでの環境制御技術についての総括 ～須崎地区環境制御技術普及推進会議を開催～



環境制御技術導入状況を説明

1月16日、須崎農業振興センターで須崎地区環境制御技術普及推進会議を開催し、生産者と関係機関の32名が集まりました。

当課からは、環境制御技術導入の普及状況やこれまでの取り組みについて、農業イノベーション推進課からは、これからのNext次世代型施設園芸農業の取り組みとIOPクラウドについて、農業技術センターと農業担い手育成センターからは、現在行っている試験状況について説明が行なわれました。

参加者からは、「環境制御技術の導入は進んでいるが、まだまだ環境制御技術の研究が必要だと思う」、「IOPクラウドのセキュリティは大丈夫か」等、活発な意見交換が行われました。

当課は、引き続き関係機関とともに環境制御技術の推進について、取り組んでいきます。